



TEAM 矢部小!

ふるさとを愛し
夢におかたて 主体的に学ぶ
心ゆたかたて たくましい矢部っこ



矢部小ホームページの2次元コードです。学校生活、給食もアップしています。是非ご覧ください。

山都町立矢部小学校
学校便り 第2号
令和8年4月20日発行
文責：原田 加代子

27名の1年生が元気に入学してきました

新1年生27名が元気に入学してきました。毎朝、元気にあいさつをしてくれる1年生です。6年生が、毎日、朝から1年生の所に行ったり給食の手伝いをしたりと、進んで関わっています。1年生の今後の成長が楽しみです。

4月15日は、1年生を迎える会を行いました。残念ながら雨で遠足には行けませんでした。1年生の紹介やゲームを行うなど楽しい時間を過ごしました。



4月14日「かみましき『命と防災』の日」

平成28年に発生した熊本地震から10年が経過しました。上益城は、特に地震の被害が大きかったことから、前震のあった4月14日を「かみましき『命と防災の日』」と位置付け、当時の教訓を忘れず命の大切さや防災の意識を高める取組を行っています。本年度の4月14日、矢部小学校でも、校長講話と防災に関する学習を行いました。

校長講話では、私自身が益城町で被災をした時の経験を当時の写真等を活用しながら話をしました。2度の大きな地震で、家が全壊となり住めなくなったこと、道路がもりあがったり、がけくずれがして通れなくなったりしたこと、水道も電気も食べ物も、住む場所もなく「これからどうしよう」と不安だったこと、たくさんの方に助けてもらったこと。だからこそ、今ある生活や命は当たり前前ではないことなどを話しました。どの子も真剣に話を聞いてくれました。



(学習後の児童の感想)

- ・私は校長先生が、一生懸命見せてくれた写真を見てすごくこわかったです。もしおきたら、避難場所に早く行きたいです。
- ・校長先生のうちがこわれたら、わたしだったら校長先生と同じです。「とっても悲しいです」どれくらいこわかったのか、どれくらい悲しかったのか、どうろや家がこわれたのが私はとてもいやです。
- ・益城のばあちゃんの家が地震でつぶれたってお母さんが言ったので怖いと思いました。無事でよかったです。もう地震はこないでほしいです。
- ・建物とかがくずれて住めない人もいれば、なくなった人もいますので、その人達のため頑張っている生活にしたいです。電気、水があるのは当たり前じゃないんだと知りました。これからはみんなを救っていい暮らしにしたいです。
- ・話を聞いて、地震はいつおこるかかわからないから準備をしようと思った。ぼくは、今の生活に感謝してすごそうと思った。もし、地震がきたら、まずは、自分の命を守ろうと思った。
- ・校長先生の話聞いて思ったことが2つあります。1つめは、地震は全てをうばうということです。家や命など思い出の場所なども奪ってしまうのでとてもおそろしいと思いました。2つめは、ボランティアです。大人だけではなく子どもたちも協力してすごいと思いました。私も助け合える人になりたいと思いました。
- ・今、ここにいるのは当たり前じゃないから、毎日1日1日を大切に生きていこうと思いました。地震が来てなくなられた方がいて、悲しい思いの方がいると思うから、自分も家族や友だちを大切にしようと思えました。もし、地震が来たら、どんな行動をとってどんな場所に逃げたらいいか把握しようと思えました。 **学校で学んだことをおうちの方に話をした子どももいたようです。**

授業参観・PTA総会、懇談会大変お世話になりました! 家庭訪問、お世話になります

4月18日、お忙しい中、授業参観等への参加ありがとうございました。また、今週の月曜日から家庭に担任等が訪問させていただいています。よろしく願いいたします。